

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法IA						
担当教員	作井 恵子					科目ナンバ-	Q2306A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	英語科の指導に関する基本的な知識と技能の習得						
授業の概要	中学校および高等学校での英語科教育に関する基本的な知識と考え方を身につけ、実際の英語の授業を行う上での技能の習得を図り、模擬授業を行う。						
到達目標	英語教育に関する知識、考え方、基本的な指導技法を身につけ、教育実習での指導に生かすことができる。						
授業計画	第1回 英語科教育法の履修にあたって 第2回 英語科教員に求められる資質と能力 第3回 中学校学習指導要領のねらい 第4回 中学校学習指導要領（英語版） 第5回 高等学校学習指導要領のねらい 第6回 高等学校学習指導要領（英語版） 第7回 日本における英語教育の歴史（ゲストスピーカー） 第8回 英語科教授法の分類と特徴 第9回 英語教育と国際理解教育 第10回 テストと評価 第11回 Can-doリストの作成と活用 第12回 中、高等学校における英語教育の実際 第13回 中学校：模擬授業 第14回 高等学校：模擬授業 第15回 まとめと定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業と並行して、英語教員として必要な英語力（コミュニケーション能力、読解力はもとより、文法、語彙、語法）を身につける。 課題に取り組むこと、英語力向上のために週平均2時間は費やすこと。						
授業方法	講義・演習 一方的な講義形式ではなく、問題提起に対するディスカッション・質疑応答など取り入れる。また模擬授業に対しては教員および他の学生からのアドバイスを取り入れ、振り返りを行いながら授業を行う。						
評価基準と評価方法	学習指導案作成と模擬授業30%、定期試験40%、平常点（提出物、意欲、態度）30%						
履修上の注意	英語の学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。 科目の性質上、生徒を指導する立場を目指すので、遅刻・欠席をしないこと。やむをえず遅刻・欠席する場合は事前に連絡すること。						
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」						
参考書	文部科学省検定済教科書（中学校）「ONE WORLD English Course」 1, 2, 3（教育出版） 同 「NEW CROWN: English Series」 1, 2, 3（三省堂） 文部科学省検定済教科書（高等学校）「CROWN English Communication」 I, II（三省堂） 文部科学省「中学校学習指導要領」 文部科学省「高等学校学習指導要領」						

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法IB						
担当教員	作井 恵子					科目ナンバ-	Q2306B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	英語科の指導に関する基本的な知識と技能の習得。						
授業の概要	前期に引き続き英語科教育に関する基本的な知識と考え方を身につけ、実際の英語の授業を行う上での技能の習得を図る。講義と模擬授業等の演習を中心に進める。中学校・高等学校の教材を基に学習指導案を作成し、模擬授業を行い実践的な指導方法を体得する。						
到達目標	前期に引き続き英語教育に関する知識、考え方、基本的な指導技法を身につけ、教育実習や学校現場での指導に生かすことができる。						
授業計画	第1回 授業観察の在り方、観点 第2回 授業展開の実際（中学校授業観察） 第3回 授業展開の実際（高等学校授業観察） 第4回 デジタル教科書の活用 第5回 中学校の教材研究 第6回 中学校の学習指導案の作成と検討 第7回 中学校の模擬授業1 第8回 中学校の模擬授業2 第9回 高等学校の教材研究 第10回 高等学校の学習指導案の作成と検討 第11回 高等学校の模擬授業1 第12回 高等学校の模擬授業2 第13回 模擬授業の点検 第14回 教育実習への心構えと準備 第15回 後期のまとめと定期試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業と並行して、英語教員として必要な英語力（コミュニケーション能力、読解力はもとより、文法、語彙、語法）を身につける。 課題に取り組むこと、英語力向上のために週平均2時間は費やすこと。						
授業方法	講義・演習 一方的な講義形式ではなく、問題提起に対するディスカッション・質疑応答など取り入れる。また模擬授業に対しては教員および他の学生からのアドバイスを取り入れ、振り返りを行いながら授業を行う。中学校・高等学校での英語科の授業の実際を知るため、中学校・高等学校での授業参観を予定している（交通費は自己負担）。						
評価基準と評価方法	学習指導案作成と模擬授業30%、定期試験40%、平常点（提出物、意欲、態度）30%						
履修上の注意	英語の学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。 科目の性質上、生徒を指導する立場を目指すので、遅刻・欠席をしないこと。やむをえず遅刻・欠席する場合は事前に連絡すること。						
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」						
参考書	文部科学省検定済教科書（中学校）「ONE WORLD English Course」 1, 2, 3（教育出版） 同 「NEW CROWN: English Series」 1, 2, 3（三省堂） 文部科学省検定済教科書（高等学校）「CROWN English Communication」 I, II（三省堂）  文部科学省「中学校学習指導要領」 文部科学省「高等学校学習指導要領」						

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法II						
担当教員	作井 恵子					科目ナンバ-	Q23070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第2言語習得理論に基づいた語学教育をテーマとし、これについて基本的知識を習得しながら英語科教育法の実践に発展させることを目標とする。これに加えて英語で授業を行える教授力を身につけることも目標とする。						
授業の概要	第2言語習得理論の観点から、英語の基本学習活動である4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）について学び、それを基礎とし、効果的な指導法を模索していけるよう、実践的な訓練を行う。						
到達目標	第2言語習得理論についての概要を理解し、説明することができる 英語の4技能について理解し、それを実践に応用できる 教室英語を駆使し英語で授業を行うことができる						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第2言語習得理論 概論</li> <li>2. 文法とはなにか</li> <li>3. 第2言語習得理論からみたリーディング</li> <li>4. リーディング教授法と実践、および教室英語</li> <li>5. 第2言語習得理論からみたリスニング</li> <li>6. リスニング教授法と実践、および教室英語</li> <li>7. 英語による英語の授業（DVD）</li> <li>8. 第2言語習得理論からみたスピーキング</li> <li>9. スピーキング教授法と実践、ゲームについて</li> <li>10. 第2言語習得からみたライティング</li> <li>11. ライティング教授法と実践、教室英語</li> <li>12. 評価方法について</li> <li>13. 語彙指導について</li> <li>14. ティームティーチング、学級運営について</li> <li>15. 復習と定期試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	第2言語習得理論については、教科書および参考書を熟読して授業に望むこと 模擬授業に関しては、指導案作成、教材研究、教材開発など授業外で準備し臨むこと 授業の予習には平均週1時間ほど時間をかけること。1回の模擬授業には最低5時間の時間をかけること。						
授業方法	講義 一方的な講義形式ではなく、問題提起に対するディスカッション・質疑応答などアクティブラーニングの形態を取り入れる。						
評価基準と評価方法	レポート 30% 模擬授業 30% 定期試験 40%						
履修上の注意	出席重視、欠席あるいは遅刻の場合は事前に連絡すること						
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」						
参考書	文部科学省「中学校学習指導要領」 文部科学省「高等学校学習指導要領」						

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法III						
担当教員	作井 恵子・芝 裕子					科目ナンバ-	Q24080
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	英語科指導に必要な知識を蓄積し、実践的な指導法を身につける						
授業の概要	英語科教育法 I, II で得た知識を総括し、教授法についての知識をさらに深める 模擬授業を通し実践的な教授力を身につける						
到達目標	英語科において必要な教授法の基礎知識について説明できる 学年、教材を想定したうえで、指導案を作成し模擬授業を行うことができる						
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導案の書き方（復習）：略案・細案  第2回：教育実習への心構え（英語科）  第3回：授業観察および模擬授業（中学校）  第4回：授業観察および模擬授業（高等学校）  第5回：学習指導案の書き方：英語で  第6回：英語で授業を行うということ  第7回：学級運営と英語の授業  第8回：学習到達目標を理解する（再考）  第9回：異文化を考える  第10回：補助教材を考える  第11回：評価について考える  第12回：英語教員になるために  第13回：授業観察（DVD）  第14回：教育実習の振り返り  第15回：授業総括と定期試験</p> <p>担当内訳：  第1回、第5回～13回、第15回：作井  第2回～第4回、第14回：芝</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	芝担当について <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習に向けての課題レポート（30分程度）</li> <li>・模擬授業指導案作成、修正（3時間程度）</li> <li>・教育実習振り返りレポート（30分程度）</li> </ul> 作井担当について 授業の予習および振り返りには平均週30分ほど時間をかけること。						
授業方法	グループワーク、ディスカッション、模擬授業、双方向型講義						
評価基準と評価方法	模擬授業（40%） レポート（30%） 試験（30%）						
履修上の注意	担当の発表や模擬授業は何度も練習し最大限の努力をもって臨むこと 出席重視、やむを得ず遅刻・欠席するときは事前に連絡すること						
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説 外国語編」 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」						
参考書	文部科学省「中学校学習指導要領」 文部科学省「高等学校学習指導要領」						

科目区分	教職課程科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	水田 時男					科目ナンバ-	Q23280
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	介護体験を意義深いものとする						
授業の概要	中学校教諭の普通免許状を取得するために、介護等体験を行うことが法律によって義務づけられた。介護等体験では、個人の尊厳や社会連帯の理念を深めることを目標としており、相手の人格を尊重し、対等の人として共生する生き方を身をもって体験することが求められている。この授業では、社会福祉に関する知識や理解、障害者や高齢者に対する介護・援助等のあり方、参加と連帯の精神等を実際の介護体験に生かし、充実したものとするために各種の視点から探求する。特に、障害のある生徒や施設利用者に対する配慮や注意、コミュニケーションの取り方、職員との接し方等、実際の取り組みに留意しながら学習を進める。						
到達目標	(1) 社会福祉施設及び特別支援学校で迷惑をかけないで、目的にあった充実した実習ができること (2) 社会福祉の意義及び社会福祉施設の基本的な活動内容を理解する (3) 特別支援教育の基本的な内容を理解する						
授業計画	第1回 制度の意義と内容 第2回 介護体験で何を学ぶか 第3回 社会福祉の意義「障害者の自立」 第4回 特別支援学校における教育 第5回 特別講師による講演 「介護の実践と留意点」 第6回 高齢者の福祉と介護 第7回 介護等体験の心得および諸注意  第8回～14回 社会福祉施設及び特別支援学校での介護体験実習  第15回 体験修了者の反省と課題発表						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	大学での講義 授業前学習：各回で行う教科書の当該箇所を予習する。前回は指示のあったテーマについて新聞記事を探し、その記事について所定の書式で考察を書く。（学習時間1時間30分） 授業後学習：授業内容をまとめ、所定の書式で振り返りを作成する。（学習時間30分） 介護体験実習 実習前学習：実習に必要な活動内容の確認及び準備をおこなう。（学習時間1時間） 実習後学習：一日のまとめ及び反省を日誌に記録する。（学習時間1時間）						
授業方法	介護体験実習、講義およびグループディスカッション等						
評価基準と評価方法	介護体験実習の取り組み状況（40%）、課題（振り返り、新聞考察、レポート等）の提出状況（40%）、講義参加の意欲、態度等（20%）						
履修上の注意	笑顔と体力が求められる。 体調を十分に整えて参加すること。 実習に欠席遅刻なく参加すること。 オフィスアワー：水曜日13：10～14：40 1号館6階水田研究室 教員の連絡先： tokioryo675@shoin.ac.jp						
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック四訂版 現代教師養成研究会編 大修館書店						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法I						
担当教員	奥井 一幾・得丸 定子					科目ナンバ-	Q23140
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -課程論-						
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、まず、家庭科成立の経緯などに関する教科変遷、国際的な動向を含めた現状について学ぶ。次に、学習指導要領における目標や内容等の基本的事項、家庭科の教科特性や学習課題の確認を行い、家庭科の授業づくりを行う上での基礎的知識を確認する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科の教科目標を述べることができる</li> <li>・学習指導要領の構成を理解し、必要に応じて引用・活用ができる</li> <li>・家庭科の学習課題と生活問題との関連について述べるができる</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス 家庭科を振り返る（担当：奥井） 第2回 家庭科成立の歴史的経緯（担当：奥井） 第3回 世界の家庭科（担当：奥井） 第4回 学習指導要領① 構成と教科目標（担当：得丸） 第5回 学習指導要領② 学習指導案と評価（担当：得丸） 第6回 家庭科カリキュラムの視点と構想① 青年期の発達課題と家庭科の学習目標（担当：得丸） 第7回 家庭科カリキュラムの視点と構想② 学習課題・領域マトリクスと学びの構造図（担当：得丸） 第8回 第1～7回内容の試験①及び講義前半のまとめ（担当：奥井） 第9回 家庭科の学習課題から生活問題へせまる① 生活自立と家庭科（担当：奥井） 第10回 家庭科の学習課題から生活問題へせまる② 共生と家庭科（担当：奥井） 第11回 家庭科の学習課題から生活問題へせまる③ 生活主体と家庭科（担当：奥井） 第12回 家庭科の学習領域から生活問題へせまる① いのち教育と家庭科（担当：奥井） 第13回 家庭科の学習領域から生活問題へせまる② 食と家庭科（担当：奥井） 第14回 家庭科の学習領域から生活問題へせまる③ 衣・住と家庭科（担当：奥井） 第15回 試験②と質疑応答（担当：奥井）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：各授業について、テキストの該当ページを事前に一読すること。（30分） 授業後：授業で学んだことについて、要点をノートに整理し、不明な点は速やかにテキストで確認するか、質問するなどをして知識を補うこと。（30分）						
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。						
評価基準と評価方法	試験（70%）、小レポート（20%）、授業参加態度・ワークシート記入状況など（10%）により総合的に評価する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則すべての講義に出席すること。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> </ul>						
教科書	荒井紀子編著、新版 生活主体を育む。2013. ドメス出版。（ISBN：978-4-8107-0787-8 C0036） 「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」（2018年） 「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（2019年）						
参考書	石井克枝編著、高等学校新学習指導要領の展開-家庭科編-。2010. 明治図書。（ISBN：978-4-18-850820-6） 「中学校学習指導要領」（2018年） 「高等学校学習指導要領」（2019年）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法Ⅱ						
担当教員	奥井 一幾・得丸 定子					科目ナンバ-	Q23150
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -教材論-						
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、教材開発を中心に、家庭科の授業づくりの一連を確認する。その中で、学習指導案の作成において必要な知識を身につけるとともに、作成した教材の発表を通じて「家庭科指導法Ⅲ」につながる授業実践の基礎を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科における教材、教具の意義について述べることができる</li> <li>・授業での活用を意図した教材開発を行い、その概要を分かりやすくまとめ、発表することができる</li> </ul>						
授業計画	第1回 講義ガイダンス（家庭科Ⅰの学びの振り返り）（担当：奥井） 第2回 学校教育現場での授業参観（於：松蔭中高）（担当：奥井） 第3回 学校教育現場での授業参観（於：松蔭中高）（担当：奥井） 第4回 教材とは（担当：奥井） 第5回 食分野における教材活用の例（担当：奥井） 第6回 家族分野における教材活用の例（担当：奥井） 第7回 衣・住分野における教材活用の例（担当：奥井） 第8回 消費生活分野における教材活用の例（担当：奥井） 第9回 各活用事例についての検討会（ディスカッション形式）（担当：奥井） 第10回 家庭科教材とアクティブ・ラーニング（担当：奥井） 第11回 教材作成と発表①（担当：得丸） 第12回 教材作成と発表②（担当：得丸） 第13回 作成した教材について検討会（ディスカッション形式）（担当：得丸） 第14回 作成した教材の改善（Plan Do Seeの視点から）（担当：得丸） 第15回 講義全体のまとめと質疑応答（担当：奥井）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。また、理解が不十分な点をテキストなどで補うこと。（30分） 授業後：講義内で終えることができなかった課題については、講義外の時間を活用し各自で積極的に取り組むこと。（30分）						
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、視聴覚教材の学習や実際の家庭科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。						
評価基準と評価方法	教材についてのプレゼンテーション(60%)、授業課題取り組み状況・ワークシート記入状況(40%)で総合的に評価する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科教育法Ⅲと並行して履修すること。</li> <li>・原則すべての講義に出席すること。</li> <li>・20分以上の遅刻は欠席とみなす。</li> <li>・学外研修（授業参観）に行く際の交通費は実費負担とする。</li> </ul>						
教科書	「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」（2018年） 「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（2019年）						
参考書	荒井紀子編著、新版 生活主体を育む。2013。ドメス出版。（ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036）。 北陸家庭科授業実践研究会Ver.2編。考えるっておもしろい-家庭科でつなぐ子どもの思考-。2014。教育図書。（ISBN: 978-4-87730-339-6 C3037）。 「中学校学習指導要領」（2018年） 「高等学校学習指導要領」（2019年）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法III						
担当教員	奥井 一幾・得丸 定子					科目ナンバ-	Q23160
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -授業論-						
授業の概要	本講義は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、授業実践に必要な知識・技能を身につける。また、教育実習を見通した模擬授業の検討も行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業について批判的検討ができる</li> <li>・題材設定から本時の授業までを視野に入れた学習指導案（細案）が作成できる</li> <li>・自分が作成した学習指導案に基づき、模擬授業が実践できる</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス（家庭科Iの振り返り）（担当：奥井） 第2回 学習課題・領域マトリクスと学びの構造図について（担当：奥井） 第3回 家族領域授業検討 「幼児を招こう」の授業（中学校）（担当：奥井） 第4回 住領域授業検討 「まちづくりを考えよう」の授業（高校）（担当：奥井） 第5回 領域横断的授業検討 「炊き出し応援隊」の授業（中学校）（担当：奥井） 第6回 領域横断的授業検討 「年金と生活経済」の授業（高校）（担当：奥井） 第7回 模擬授業立案① 題材の選定と指導案作成（担当：得丸） 第8回 模擬授業立案② 指導案作成と質疑応答（担当：得丸） 第9回 模擬授業立案③ 指導案作成と批判的検討（担当：得丸） 第10回 模擬授業立案④ 指導案作成と模擬実践（担当：得丸） 第11回 模擬授業と検討会①（担当：奥井） 第12回 模擬授業と検討会②（担当：奥井） 第13回 模擬授業と検討会③（担当：奥井） 第14回 模擬授業と検討会④（担当：奥井） 第15回 講義全体のまとめと質疑応答（担当：奥井）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。理解が不十分な点はテキストなどを読み補うこと。（30分） 授業後：授業時間で補えない内容は、重点的に復習すること。また、自発的かつ発展的な学習を積極的に行うこと。（30分）						
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、視聴覚教材の学習や実際の家計科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。						
評価基準と評価方法	学習指導案（60%）、授業課題取組み状況・ワークシート記入状況（40%）						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科教育法Ⅱと並行して履修してください。</li> <li>・原則すべての講義に出席すること。</li> <li>・20分以上の遅刻は、欠席とみなします。</li> </ul>						
教科書	「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」（2018年） 「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（2019年）						
参考書	荒井紀子編著、新版 生活主体を育む、2013. ドメス出版. (ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036) 北陸家庭科授業実践研究会Ver.2編. 考えるっておもしろい-家庭科でつながり子どもの思考-. 2014. 教育図書. (ISBN: 978-4-87730-339-6 C3037). 「中学校学習指導要領」（2018年） 「高等学校学習指導要領」（2019年）						



科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法Ⅳ						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	Q24170
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	家庭科を教えるために -評価・分析論-						
授業の概要	本科目は、中等（中学校・高等学校）家庭科教員を養成する観点から、授業の評価・分析を中心に学ぶ。具体的には、教育実習において各自が行う授業を取り上げ、授業目標に適合した評価のあり方や授業展開等に関する学生同士の検討を通じ、自らの授業についての学習指導案の作成及び模擬授業を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業目標に適合した評価計画を作成することができる。</li> <li>・ 授業評価・分析によって得られた情報から、改善授業案（学習指導案）を作成することができる。</li> </ul>						
授業計画	第1回 ガイダンス（家庭科Ⅰ～Ⅲの学びの振り返り） 第2回 家庭科をめぐる最新の教育動向 第3回 家庭科とアクティブ・ラーニング 第4回 学習指導案作成（実習で担当する箇所について、評価規準の確認を中心に） 第5回 学習指導案と題材開発（参考指導案の選定） 第6回 学習指導案と題材開発（指導案の作成） 第7回 食領域の模擬授業 第8回 食領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第9回 衣・住領域の模擬授業 第10回 衣・住領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第11回 消費生活領域の模擬授業 第12回 消費生活領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第13回 家族領域の模擬授業 第14回 家族領域の模擬授業検討会及び改善学習指導案の作成 第15回 まとめと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：積極的な姿勢で臨めるような心構えをもつこと。理解が不十分な点は次の講義までにテキストなどを読んで理解しておくこと。それでも分からなければ質問を用意しておくこと。（30分） 授業後：授業で理解が不足していた内容は、重点的に復習すること。また、自発的かつ発展的な学習を積極的に行うこと。（30分）						
授業方法	講義は主にパワーポイントにそって進めるので、配布するワークシートやノートに要点を整理すること。講義の最後には「本日の課題」と題したミニ記述課題を実施するので、各自、その時間の学びを総括すること。さらに、視聴覚教材の学習や実際の家計科教材を体験する学習活動も取り入れるので、積極的に参加することを期待する。						
評価基準と評価方法	模擬授業指導案（60%）、授業参加態度・ワークシート記入状況（40%）などを総合的に評価する。						
履修上の注意	原則すべての講義に出席すること。 20分以上の遅刻は欠席とみなす。 ・ 必要な資料やデータ収集のため、学外で授業を行うことがあるので、入場料、交通費などの実費負担がある。						
教科書	「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」（2018年） 「高等学校学習指導要領解説 家庭編」（2019年）						
参考書	荒井紀子編著、新版 生活主体を育む、2013. ドメス出版. (ISBN: 978-4-8107-0787-8 C0036). 北陸家庭科授業実践研究会Ver.2編. 考えるっておもしろい-家庭科でつながり子どもの思考-. 2014. 教育図書. (ISBN: 978-4-87730-339-6 C3037). ¥2,600(税別) 「中学校学習指導要領」（平成29年版） 「高等学校学習指導要領」（平成22年版）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校教育心理学／教育心理学						
担当教員	藤本 浩一					科目ナンバ-	Q21030
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学校教育の心理学						
授業の概要	教育場面では、複雑化する現代社会を反映して、知的伝達のみならず、情緒面での成長を援助することが重視される。自らが精神的に健康であるばかりではなく、円滑な人間関係を築き上げ、他者により影響を与えることができる人間の形成が学校教育に期待される。この講義では、そのために必要な発達心理学や学習心理学の基礎事項をはじめ、子どもの意欲と学力、社会性の発達などについて詳しく検討する。人の成り立ちが知能や人格特徴等の単一の要因によるのではなく、心身の相互作用によることを理解する。また、学習とはどこかにある答えを覚えることという学習観を改め、自ら工夫して主体的に学ぶことを目指すものであることを自覚し、その指導方法を身につける。						
到達目標	教育活動に必要な以下の心理学的知識を身につける。①認知発達、②学習心理学、③情緒発達、④社会性の発達、⑤効果的な学習方法、⑥心理査定と学習評価						
授業計画	第1回 わかる喜び学ぶ楽しさ 第2回 エリクソンの生涯発達論 第3回 ピアジェの認知発達論 第4回 思春期・青年期の知的発達 第5回 思春期・青年期の心と体 第6回 社会性の発達 第7回 学習と記憶 第8回 学習と動機づけ 第9回 やる気と学習アイデンティティ 第10回 メタ認知と自己調整学習 第11回 頭の良さとは何か 第12回 効果的な学習方法とその指導 第13回 生徒の心理アセスメントと学習評価 第14回 教師の心理、リーダーシップ 第15回 学級集団 筆記試験（持ち込み不可）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に1）各回授業内容について参考書やインターネット検索により予習して文章にまとめ、授業後には2）授業中に示した課題について報告文を作成し、1）と2）を合わせてA4紙1枚の3前半と後半に記載して、授業開始時に教室にて提出する。学習時間は各2時間ずつ。						
授業方法	講義、グループ討論、視聴覚教材の使用。						
評価基準と評価方法	平常点（70%）と学期末の筆記試験（30%）により評価を行う。						
履修上の注意	休まずに授業の最初から出席する、授業中は集中して受講する等、基本的な学習態度が要求される。						
教科書	サブノート形式のプリントを出来るだけ配布します。 『読んでわかる児童心理学』著者：藤本・榊原・金網、サイエンス社（2019年9月刊行予定）						
参考書	タイトルに「教育心理学」が含まれる書物						

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校ボランティア実習						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	Q22290
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	スクールサポーターとしての学校支援ボランティア活動						
授業の概要	スクールサポーターとして、学校教育現場で定期的にボランティア活動を行う。内容は、児童生徒の学習支援や学校行事の運営補佐等、配属校のニーズに応じた多岐に亘る活動となる。本活動によって得られた体験については、レポートにまとめる。これら一連の活動は「実習」として捉え、受講生は、本実習を通じて教職を志す者としての自覚を形成し、主体的な学習意識を高めることが期待される。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育現場の実態に応じた活動に積極的に取り組むことができる</li> <li>・教職を志す者としての自覚や学習への主体性を高めることができる</li> </ul>						
授業計画	<p>【実習前の講義】 本講義のガイダンスを行う。主な内容は、児童生徒への理解と接し方、挨拶、服装、自己紹介の仕方、教育支援の方法、報告書の書き方、安全管理及び配慮、守秘義務の厳守等についてである。</p> <p>第1回 教育現場の現状（小・中学校を中心に） 第2回 子どもたちに自分を知ってもらおう（自己紹介と自己開示） 第3回 教育現場におけるボランティアの意義と現状 第4回 個人発表と討議（学校ボランティア活動の目標）</p> <p>【配属校での観察実習（15回以上）】 定期的に実習を行う。活動毎に、必ず報告書を書き、その日に経験したこと、学んだこと等について詳細な記録をとる。各自の活動については、担当教員が配属校へ巡回訪問・実地指導を行う場合がある。</p> <p>【実習後の講義】 各自の活動報告及び反省会を行う。活動を通して感じたこと、考えたこと、学んだことについて、報告書をもとにレポートとしてまとめる。</p> <p>第5回 個人発表（教育現場で得た経験についての報告） 第6回 討議（各自の課題とそれを解決するための手立て） 第7回 教育現場におけるボランティアの将来展望 第8回 終講課題（小論文）と質疑応答</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>事前：配属校の特色、教育目標や活動内容等について事前にインターネットや書籍を通じた情報収集を行う（1時間） 事後：活動毎の報告書は実習後、記憶が鮮明なうちに速やかに記入する。（30分間）</p>						
授業方法	各配属校での実習活動、講義と講話、グループ討論						
評価基準と評価方法	報告書の記入状況(60%)、配属校担当教員の評価(30%)、レポートの内容(10%)						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習回数は、半日の場合を「1回」、終日の場合を「2回」として数える。</li> <li>・合計で15回以上の活動を最低条件とする。</li> <li>・児童生徒との実習外での連絡、交友は禁止する。</li> <li>・本実習で知り得た個人・学校組織情報は守秘義務を厳守する。</li> </ul>						
教科書	実習活動状況に応じてその都度配布する。						
参考書	特になし						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育課程総論／教育課程論						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバ-	Q22050
学期	後期 前半	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	教育課程の編成						
授業の概要	学校教育において何をいつどのように教え学ぶのかという問いに関わるのが教育課程（カリキュラム）である。本講義では教育課程の編成に関する基本的な概念を検討したうえで、日本における教育課程の歴史的変遷について考察する。教育課程を問うとは、学校の教育内容の選択・組織という視点をもとに、学校教育のあり方そのものを問いなおすことでもある。						
到達目標	学校の教育課程の編成に関する基本的な理論を理解することをめざす。具体的には、以下の2つを主な内容として取り上げる。 1. 教育課程の編成原理 2. 日本における教育課程の歴史的変遷						
授業計画	第1回 教育課程とは何か（時間割から、小・中・高の教育課程を概観する） 第2回 教育課程の編成原理（学問中心主義と子ども中心主義） 第3回 教育課程の構造1（教科学習と総合学習、学力とは何か） 第4回 教育課程の構造2（教科学習と生活指導） 第5回 学習指導要領に見る教育課程の変遷1（戦後民主主義と経験主義） 第6回 学習指導要領に見る教育課程の変遷2（経済発展と教育内容の現代化） 第7回 学習指導要領に見る教育課程の変遷3（ゆとりと生きる力） 第8回 試験と講義全体の振り返り：学習指導要領改訂に向けた議論の確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所や配布資料について予習をする（30分）。 授業後学習：授業で学んだことを整理し、ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し、理解を深める（60分）。						
授業方法	講義形態による授業に加えて、グループで課題に取り組むなどのアクティブラーニングを取り入れる。また、視聴覚教材を活用して、多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。						
評価基準と評価方法	平常点30%（授業時の小レポートなど）、試験70% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行なう。						
履修上の注意	1. 教員免許状取得のための必修科目（中・高）である。 2. 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって変更する可能性があることを了承されたい。						
教科書	田中耕治他『よくわかる教育課程 [第2版]』ミネルヴァ書房、2018年。						
参考書	田中耕治他『新しい時代の教育課程』（第3版）有斐閣、2011年 中学校学習指導要領 2017年改訂						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育経営学						
担当教員	渡部 昭男・水田 時男					科目ナンバ-	Q22040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	これからの学校に求められるもの						
授業の概要	生徒が共に学び、共に成長できる学校教育の実践を目指し、学校教育目標、学校の組織・運営、教職員の協力・連携等から学校の経営の在り方について考察する。また、戦後の教育の歩みと主要課題を社会的変動の中で明らかにし、見え難い今後の教育の方向や課題を探り、少子高齢化時代、生涯学習時代、高度情報化時代の中での今後の教育経営の在り方について探求する。また、教育経営の基礎となる教育関係法規について、教育行政や教育制度からの視点を加え学習を深める。						
到達目標	学校現状と課題を理解し、教育経営を法規上で解釈することができる						
授業計画	第1回 教育経営の概説及び教育委員会—教育行政の制度と経営教育制度（担当：渡部） 第2回 教員採用—教師教育の制度と経営（担当：渡部） 第3回 学級編成—学級編成・教員配置の制度と経営（担当：渡部） 第4回 不登校対応—発達支援・教育支援の制度と経営（担当：渡部） 第5回 教育予算—学校財政の制度と経営（担当：渡部） 第6回 学校経営—保護者・住民参画の制度と経営（担当：渡部） 第7回 地方分権—地方分権・地方自治の制度と経営（担当：渡部） 第8回 学校経営と教育目標（担当：水田） 第9回 学校の組織の構築（KJ法）（担当：水田） 第10回 発表と検討（担当：水田） 第11回 学校の組織と経営の実態（担当：水田） 第12回 これからの教育経営—開かれた学校づくり（担当：水田） 第13回 生徒指導と法規（担当：水田） 第14回 学習指導要領と教育課程編成（担当：水田） 第15回 教育経営のまとめ（担当：水田）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	渡部担当： 授業前学習：教科書の該当箇所の予習（学習時間1時間） 授業後学習：学習カードの作成（学習時間30分）最終レポート作成（学習時間2時間） 水田担当： 授業前学習：教科書の該当箇所の予習及びテーマに沿った新聞記事の考察（学習時間1時間30分） 授業後学習：授業内容をまとめ、所定の書式で振返りを作成（学習時間30分）						
授業方法	渡部担当：講義 水田担当：講義とグループ討議、プレゼンテーション						
評価基準と評価方法	渡部担当については、毎回提出する学習カード（50%）、まとめとして提出するレポート（50%） 水田担当については、授業への取り組み（40%）、レポート提出（40%）、発表の成果（20%） 総合評価は、渡部担当（50%）と水田担当（50%）とする。						
履修上の注意	渡部担当においては、学習カードを毎回提出するとともに、まとめのレポートを提出すること。 水田担当においては、毎授業の振返りと新聞記事についての考察を所定の書式で作成して提出のすること。 水田 オフィスアワー：水曜日 13：10～14：40（1号館6階研究室）						
教科書	渡部担当：志木教育政策研究会著／渡部昭男・小川正人・金山康博編『市民と創る教育改革』日本標準 水田担当：プリント						
参考書	渡部担当：講義時に指示します。 水田担当：講義時に指示します。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育原論／教育原理						
担当教員	松岡 靖・奥井 一幾					科目ナンバ-	Q22020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	教育の理念・歴史・思想を踏まえて現代日本の教育問題を考察する。						
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に学生が教育の基本概念を修得し、教育を成り立たせる諸要因とその相互関係を理解することである。第二に学生が教育史の基礎的知識を修得し、それと多様な教育の理念との関わりを理解し、乳幼児教育から小学校・中学校・高校までの歴史の変遷を理解することである。第三に学生が教育に関する多様な思想と理念について修得し、それらと実際の教育や各学校教育段階との関わりを理解することである。具体的なキーワードは、学校系統図、近代公教育制度、学校化、業績原理、ジェンダー、臨床教育学、教育評価などである。						
到達目標	教育の基本的概念は何か、また教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかを学生が学び【汎用的技能】、これまでの教育・学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学生が理解する【知識・理解】。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：教育の理念・歴史・思想（担当：松岡） 第2回 学校教育制度(1)：人間の発達と教育段階の関連（担当：松岡） 第3回 学校教育制度(2)：小学校就学と高校進学の世界（担当：松岡） 第4回 学校教育制度(3)：目的・内容・方法の多様性（担当：松岡） 第5回 学校化社会(1)：帰属原理から業績原理への移行（担当：松岡） 第6回 学校化社会(2)：教育にみるジェンダーの変遷（担当：松岡） 第7回 学校化社会(3)：三育主義から生涯学習への要請（担当：松岡） 第8回 臨床教育学：構成的エンカウンターを体験する（担当：松岡） 第9回 教育の成立(1)：子供と家庭との関係から（担当：奥井） 第10回 教育の成立(2)：学校と地域との関係から（担当：奥井） 第11回 教育評価の理念：診断・形成・総括という段階（担当：松岡） 第12回 教育の定義(1)：伝統的稽古から近代的教育へ（担当：松岡） 第13回 教育の定義(2)：世界と日本にみる教育思想史（担当：松岡） 第14回 成果の活用(1)：グループ発表と質疑応答（担当：松岡） 第15回 成果の活用(2)：授業のまとめと教育評価（担当：松岡）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 参加者が自分の物語をテキストとして考察する（学習時間：5時間）。 2. 時事問題に隠れた教育原理上の課題を発見する（学習時間：5時間）。 3. 期末レポートの作成と発表に楽しんで取り組む（学習時間：10時間）。						
授業方法	1. 前半では教科書と配付資料について教員が解説する。 2. 中盤では視聴覚教材を活用して学生同士で議論する。 3. 後半では発表や質疑といったグループワークを行う。						
評価基準と評価方法	1. 平常点40点（毎回のコメントカード、レポートの発表など） 2. レポート60点（授業を踏まえ現代日本の教育問題を論じる）						
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮せず積極的に質問すること。 2. 私語等で受講者に迷惑をかけるならようなら欠席すること。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。						
教科書	『サヨナラ、学校化社会』上野千鶴子、筑摩書房、978-4-480-42460-0。						
参考書	必要に応じて配付と指示を行う。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育社会学（中・高）						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	
学期	後期 後半	曜日・時限	水曜5	配当学年	2~4	単位数	1.0
授業のテーマ	学校の社会的機能を理解し、教育政策の動向を把握する。						
授業の概要	教育社会学は、さまざまな教育現象を社会的に研究する学問領域である。講義では、教育と選抜、社会階層と教育、情報化と教育といった教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題、例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について、教育社会学の理論や分析手法を用いて検討を加えていく。これにより、事象を個人的な経験を基にした主観的な見方ではなく、客観的に捉える力を養うことを目指していく。そして、学校と家庭、地域等、教育を取りまく社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目的とする。						
到達目標	教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養う。						
授業計画	第1回：教育社会学とは何か 第2回：日本の教育政策の動向－諸外国との比較から－ 第3回：教育をめぐる格差問題 第4回：教育問題①－ネットいじめ問題 第5回：教育問題②－不登校の問題 第6回：教育問題③－特別な支援を必要とする子どもへの対応 第7回：学校と地域社会との連携 第8回：学校安全への対応						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・教育社会学に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。						
授業方法	講義およびグループディスカッションを中心に行う						
評価基準と評価方法	・課題試験60% ・平常点40%						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。						
教科書	適宜、レジュメ、資料等を配布する						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習（中・高）						
担当教員	奥井 一幾					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	教育実習では、十分に教材（題材・作品）研究を行い、よく授業計画を練って、常に真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力する。なお、実習期間中は、「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、日々の反省をその後の実習に生かすよう努力する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導に必要な基礎的知識および技能を身につけることができる。</li> <li>・教材研究を深め、学習指導案に基づいた授業が実践できる。</li> <li>・生徒指導や課外活動に積極的に参加することができる。</li> </ul>						
授業計画	<p>本科目は、事前指導3回、実習校における教育実習、事後指導1回で構成される。ここにおける「事前・事後指導」は、教科別に大学で行われる座学の講義である。具体的には下記の通り進める。</p> <p>第1回 事前指導（教科指導の心得）  第2回 事前指導（先輩に聞く）※ゲストスピーカー  第3回 事前指導（教科指導の目標設定）</p> <p>教育実習については、回ごとには記せないが、主に下記の事項について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特徴、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等)</li> <li>・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等を学ぶ)</li> <li>・「教育実習記録」に日々の記録をつける</li> <li>・松蔭manaba上で経過報告を行う（週に1度）</li> <li>・研究授業(教育実習の総仕上げの授業)</li> <li>・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける、学習指導案の修正等を行う)</li> <li>・実習期間終了後の報告等</li> </ul> <p>(実習日誌に反省や感想をまとめ報告する、御礼状の送付等、滞りなく進める)</p> <p>第4回 事後指導（教職実践演習(中・高)へ向けた課題の整理と反省)</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	充実した実習になるよう余念なく準備する。						
授業方法	実習（事前・事後指導を含む）						
評価基準と評価方法	実習校からの報告(50%)、「教育実習記録」の記入状況(40%)、事前事後指導の授業内課題への取り組み(10%)						
履修上の注意	教育実習中の欠席、遅刻は絶対にしないこと。実習校の教諭の指導助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、充実した実習となるよう努力すること。相談、連絡のある人は以下のアドレスまで。						
教科書	必要に応じて配付する。						
参考書							



科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習（中・高）						
担当教員	作井 恵子					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	教育実習では、十分に教材（題材・作品）研究を行い、よく授業計画を練って、常に真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力する。なお、実習期間中は、「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、日々の反省をその後の実習に生かすよう努力する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導に必要な基礎的知識および技能を身につけることができる。</li> <li>・教材研究を深め、学習指導案に基づいた授業が実践できる。</li> <li>・生徒指導や課外活動に積極的に参加することができる。</li> </ul>						
授業計画	<p>本科目は、事前指導3回、実習校における教育実習、事後指導1回で構成される。ここにおける「事前・事後指導」は、教科別に大学で行われる座学の講義である。具体的には下記の通り進める。</p> <p>第1回 事前指導（教科指導の心得）  第2回 事前指導（先輩に聞く）※ゲストスピーカー  第3回 事前指導（教科指導の目標設定）</p> <p>教育実習については、回ごとには記せないが、主に下記の事項について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校でのオリエンテーション（実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等）</li> <li>・教育実習（観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等を学ぶ）</li> <li>・「教育実習記録」に日々の記録をつける</li> <li>・松蔭manaba上で経過報告を行う（週に1度）</li> <li>・研究授業（教育実習の総仕上げの授業）</li> <li>・研究授業の反省（研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける、学習指導案の修正等を行う）</li> <li>・実習期間終了後の報告等（実習日誌に反省や感想をまとめ報告する、御礼状の送付等、滞りなく進める）</li> </ul> <p>第4回 事後指導（教職実践演習（中・高）へ向けた課題の整理と反省）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	充実した実習になるよう余念なく準備する						
授業方法	実習（事前・事後指導を含む）						
評価基準と評価方法	実習校からの報告（50%）、「教育実習記録」の記入状況（40%）、事前事後指導の授業内課題への取り組み（10%）						
履修上の注意	教育実習中の欠席、遅刻は絶対にしないこと。実習校の教諭の指導助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、充実した実習となるよう努力すること。相談、連絡のある人は以下のアドレスまで。						
教科書	必要に応じて配付する。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習（中・高）						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	教育実習では、十分に教材（題材・作品）研究を行い、よく授業計画を練って、常に真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力する。なお、実習期間中は、「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、日々の反省をその後の実習に生かすよう努力する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導に必要な基礎的知識および技能を身につけることができる。</li> <li>・教材研究を深め、学習指導案に基づいた授業が実践できる。</li> <li>・生徒指導や課外活動に積極的に参加することができる。</li> </ul>						
授業計画	<p>本科目は、事前指導3回、実習校における教育実習、事後指導1回で構成される。ここにおける「事前・事後指導」は、教科別に大学で行われる座学の講義である。具体的には下記の通り進める。</p> <p>第1回 事前指導（教科指導の心得）  第2回 事前指導（先輩に聞く）※ゲストスピーカー  第3回 事前指導（教科指導の目標設定）</p> <p>教育実習については、回ごとには記せないが、主に下記の事項について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校でのオリエンテーション（実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等）</li> <li>・教育実習（観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等を学ぶ）</li> <li>・「教育実習記録」に日々の記録をつける</li> <li>・松蔭manaba上で経過報告を行う（週に1度）</li> <li>・研究授業（教育実習の総仕上げの授業）</li> <li>・研究授業の反省（研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける、学習指導案の修正等を行う）</li> <li>・実習期間終了後の報告等（実習日誌に反省や感想をまとめ報告する、御礼状の送付等、滞りなく進める）</li> </ul> <p>第4回 事後指導（教職実践演習（中・高）へ向けた課題の整理と反省）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	新聞記事検索・レポート作成等（1時間程度）、学習指導案の作成・修正等（30分程度）、授業の振り返り（20分程度）						
授業方法	実習と事前・事後指導						
評価基準と評価方法	実習校からの報告（50%） 「教育実習記録」の記入状況（40%） 事前事後指導の授業内課題への取り組み（10%）						
履修上の注意	教育実習中の欠席、遅刻は絶対にしないこと。実習校の教諭の指導助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、充実した実習となるよう努力すること。						
教科書	必要に応じて配付する。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習（中・高）						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	教育実習						
授業の概要	教育実習では、十分に教材（題材・作品）研究を行い、よく授業計画を練って、常に真摯な姿勢で臨み、また実習校の教諭の指導、助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、実りある実習となるよう努力する。なお、実習期間中は、「教育実習記録」に毎日必要事項を記入し、日々の反省をその後の実習に生かすよう努力する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導に必要な基礎的知識および技能を身につけることができる。</li> <li>・教材研究を深め、学習指導案に基づいた授業が実践できる。</li> <li>・生徒指導や課外活動に積極的に参加することができる。</li> </ul>						
授業計画	<p>本科目は、事前指導3回、実習校における教育実習、事後指導1回で構成される。ここにおける「事前・事後指導」は、教科別に大学で行われる座学の講義である。具体的には下記の通り進める。</p> <p>第1回 事前指導（教科指導の心得）  第2回 事前指導（先輩に聞く）※ゲストスピーカー  第3回 事前指導（教科指導の目標設定）</p> <p>教育実習については、回ごとには記せないが、主に下記の事項について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校でのオリエンテーション（実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等）</li> <li>・教育実習（観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等を学ぶ）</li> <li>・「教育実習記録」に日々の記録をつける</li> <li>・松蔭manaba上で経過報告を行う（週に1度）</li> <li>・研究授業（教育実習の総仕上げの授業）</li> <li>・研究授業の反省（研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける、学習指導案の修正等を行う）</li> <li>・実習期間終了後の報告等（実習日誌に反省や感想をまとめ報告する、御礼状の送付等、滞りなく進める）</li> </ul> <p>第4回 事後指導（教職実践演習（中・高）へ向けた課題の整理と反省）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	充実した実習になるよう余念なく準備する（学習時間：90分）						
授業方法	実習（事前・事後指導を含む）						
評価基準と評価方法	実習校からの報告（50%）、「教育実習記録」の記入状況（40%）、事前事後指導の授業内課題への取り組み（10%）						
履修上の注意	教育実習中の欠席、遅刻は絶対にしないこと。実習校の教諭の指導助言に従い、その注意や批評をよく受け止め、充実した実習となるよう努力すること。						
教科書	必要に応じて配付する。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習指導（中・高）						
担当教員	水田 時男					科目ナンバ-	Q23230
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	学校現場において、「教員」として先輩教員と協働し教育活動を進めていく資質を身につける。						
授業の概要	学校は、教育目標と校長の経営方針に沿って、教職員が協働して生徒の教育を行う場である。教育実習生とはいえ教壇に立つ者は「先生」としてのあり方を意識し、先輩教員と協働して教育を進めていく姿勢が求められる。来年度の教育実習に先立ち、教科指導以外の教育活動を具体的にイメージし、実習に臨む心構えと姿勢を整える。						
到達目標	学校現場で、その目的に応じた具体的な場面でのあり方をイメージできる。						
授業計画	第1回 教育実習の意義と課題 第2回 教育実習の日々 第3回 生徒指導の意義と課題 第4回 生徒指導の実際 第5回 カウンセリングマインドとコーチング（演劇的手法を用いたゲストスピーカーによるワークショップ） 第6回 カウンセリングマインドとコーチングに基づいたホームルーム経営 第7回 協働する姿勢（打ち合わせや会議への臨み方） 第8回 教育活動の諸課題と教師としての臨み方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：教育に関するテーマについて新聞記事を探し、その記事について所定の書式で考察を書く。（学習時間1時間30分） 授業後学習：授業内容をまとめ、所定の書式で振り返りの作成及び最終レポートの作成。（学習時間2時間）						
授業方法	講義、グループディスカッション、ロールプレイなど。						
評価基準と評価方法	課題の内容と提出状況（50%）、授業への参加についての意欲・態度・関心（30%）、最終レポート「私はなぜ教職を選んだか」の内容（20%）。						
履修上の注意	将来、教壇に立ち、児童・生徒を育てていくことを前提とした授業である。従って、社会人としてのマナーはもとより、無遅刻・無欠席を求める。やむを得ず遅刻・欠席をする場合は必ず事前に連絡を入れること。 オフィスアワー：水曜日13：10～14：40 1号館6階 水田研究室 連絡先：tokioryo675@shoin.ac.jp						
教科書	特になし。プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育相談の理論と方法						
担当教員	志田 望					科目ナンバ-	Q23220
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	教育相談における臨床心理学的理論と方法						
授業の概要	本講義では、学校現場で起こるさまざまな問題に対する見立てのために必要な理論の講義と、それに伴う実践的なカウンセリング演習を行う。また、実際に学校現場で起こっている事例について検討する。グループ演習を通して、生徒や保護者、教職員の理解の仕方や働きかけ方について学ぶ。特別支援教育については、対象となる生徒の特徴の見分け方、教室での対応の仕方、支援計画の立て方、保護者対応で考慮すべき点を理解できるようにする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育相談やカウンセリングについて、いくつかの理論による見立てと働きかけ方の習得。</li> <li>・ 様々な事例についてグループディスカッションを行い、生徒・教職員とのやりとりについて演習を通して理解する。</li> <li>・ 特別支援教育における保護者や教員のニーズの捉え方、配慮すべき点、支援プログラムの立て方について。</li> </ul>						
授業計画	第1回：教育相談の役割 第2回：教育相談の概論－教育相談の枠組み 第3回：カウンセリングの基礎 第4回：教育相談におけるアセスメント（1）3分類 第5回：自律訓練法・リラクゼーション 第6回：不登校の理解 第7回：主訴と共感的理解 第8回：教育相談の面接展開と情報収集-想像力 第9回：教育相談におけるアセスメント（2）心理テスト 第10回：教育相談における働きかけ 第11回：学校臨床におけるグループダイナミクス 第12回：保護者・教員との協働－コンサルテーション 第13回：特別支援教育－行動療法によるアセスメント 第14回：特別支援教育－行動療法による支援計画と対応 第15回：教育相談まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	ロールプレイ等の実践的な内容が多いため、ノートをとる時間が少ない可能性が考えられる。毎回の講義後に、内容をノートにまとめるなど、学習内容の定着をはかること。毎回の講義後、最低30分程度、次回以降の講義内容との関連性を各自検討しておくこと。						
授業方法	講義に加えて、実践形式のロールプレイを中心に行う。						
評価基準と評価方法	平常点：出席状況と講義の積極的な参加(30%) レポート：小レポートの提出(30%) 試験：期末試験による評価(40%) 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適正」の3観点で行なう。						
履修上の注意	不明な点があれば、積極的に質問すること。						
教科書	特にありません。						
参考書	吉川悟編（1999）システム論からみた学校臨床、金剛出版 吉川悟編（2009）システム論から見た援助組織の協働、金剛出版						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育という仕事						
担当教員	水田 時男					科目ナンバ-	Q21270
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	学校教育活動の諸側面、社会とのつながりを意識させる教育支援のあり方、学校教職員として保護者・地域との連携のしかた等についての知識を深める。						
授業の概要	この授業は、教師がおこなう幅広い仕事の実態を知り、自らの教育的資質を養うことを目的とする。あわせて、教師として必要な社会人としての幅広い知見を養う。 具体的には、学生のグループワーク（議論や演習）を通じて、教師と保護者・児童生徒・地域住民等の視点を意識しながら、①教育活動を分析的に見る観点を理解し、②教育活動展開の具体的な方法を学ぶ。						
到達目標	1 学校現場のニーズに対して自らが行う教育支援について考えることができる 2 教師としての自覚を高め、サービスの重要性を理解することができる						
授業計画	第1回 学校教育と私 第2回 新聞記事を通して見える教育の課題 第3回 教育課題① キャリア教育と進路指導 1 第4回 教育課題① キャリア教育と進路指導 2（発表） 第5回 教育課題② 情報化社会と人権教育 1 第6回 教育課題② 情報化社会と人権教育 2（発表） 第7回 教育課題③ グローバル社会と国際理解教育 1 第8回 教育課題③ グローバル社会と国際理解教育 2（発表） 第9回 教育課題④ 学校事故と開かれた学校づくり 1 第10回 教育課題④ 学校事故と開かれた学校づくり 2（発表） 第11回 教育課題⑤ いじめのない学校づくり 1 第12回 教育課題⑤ いじめのない学校づくり 2（発表） 第13回 教育課題⑥ インクルーシブ教育 1 第14回 教育課題⑥ インクルーシブ教育 2（発表） 第15回 教育という仕事のまとめ・・・「チーム学校」と社会総がかりの教育の観点から						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業テーマに関連する新聞記事を収集及びその記事の考察の作成（学習時間 1時間30分） 授業後学習：前時の講義内容についての振り返りの作成（学習時間：30分）						
授業方法	講義、グループディスカッション、プレゼンテーション、相互評価など						
評価基準と評価方法	毎時のレポート課題の提出状況及び内容（50%）、講義参加の意欲・態度（30%）、発表の態度及び成果（20%）						
履修上の注意	毎時、課題をもとに授業を進める。課題に対して真摯に取り組むこと。 また、将来教壇に立ち、児童・生徒を育てていくことを前提とした授業である。従って、社会人としてのマナー、および協働する姿勢、無遅刻・無欠席を求める。やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず事前に連絡を入れること。 オフィスアワー：水曜日13：10～14：40（1号館6階研究室） 連絡先：tokioryo675@shoin.ac.jp						
教科書	特に指定しない						
参考書	平成27年版 最新の教育課題50（学陽書房）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育方法論						
担当教員	大下 卓司					科目ナンバ-	Q22200
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	授業づくりの基礎・基本						
授業の概要	まず、教育目標と教材の関係、教師の指導技術、情報機器の活用方法、教育評価など、授業づくりに必要な基本的な知識と技術を学ぶ。次に実践事例の分析を行い、先に学んだ事項が実践にどのように具体化されているのかを検討する。以上をふまえて最後に、各自が学習指導案を作成し、受講生同士の相互検討を通してよりよいものへと改善していく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業づくりに必要な基本的な知識と技術を獲得する</li> <li>・ これまでに実践されてきた授業を検討し、授業の特徴を把握できる</li> <li>・ 学習指導案を作成できるようになる</li> <li>・ 受講生同士で他者の指導案を検討し、改善に向けて議論ができる</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要の説明／「よい授業」とはどのような授業だと考えるかについて議論する。</p> <p>第2回 授業の構成要素（1）：教育目標・教材・教授行為・学習形態の概要と実践に生かす際の留意点について学ぶ。</p> <p>第3回 授業の構成要素（2）：教育評価の役割と評価方法、評価を行う際の留意点について学ぶ。</p> <p>第4回 授業の構成要素（3）：効果的な発問や板書の類型や方法について学ぶ。</p> <p>第5回 教育実践事例の検討（1）：子どもをひきつける教材のあり方について考える。</p> <p>第6回 教育実践事例の検討（2）：討論を取り入れた授業のあり方について考える。</p> <p>第7回 教育実践事例の検討（3）：ワークショップ型の授業のあり方について考える。</p> <p>第8回 教育実践事例の検討（4）：探究型の授業のあり方について考える。</p> <p>第9回 学習環境の工夫：効果的な学習を実現するための環境づくりについて考える。</p> <p>第10回 情報機器の活用した授業：ICTを取り入れた効果的な授業方法について学ぶ。</p> <p>第11回 学習指導案づくり（1）：学習指導案のつくり方について学び、実際に作成してみる。</p> <p>第12回 学習指導案づくり（2）：学習指導案づくりを行う（前回の続き）</p> <p>第13回 模擬授業：作成した指導案に沿って授業を行い、指導案を改善する。</p> <p>第14回 子どもとの向き合い方：教師としてどのようなことに気をつけながら子どもと向き合い、教育実践を進めていくのかについて考える。</p> <p>第15回 まとめと教育改革動向の説明：能力ベースのカリキュラム、アクティブラーニングについて</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：前時に行う予告に従い、次時の授業の準備を行うこと（30分）。</p> <p>授業後学習：授業内容をふりかえり、要点の整理を行うこと。また、復習の過程で質問事項が出た場合には、次の授業で質問することによって、授業内容の確実な定着をめざすこと（60分）。</p>						
授業方法	講義とともに、講義と視聴覚教材を通じて、授業の方法について理解を深めた後、履修者数に応じて、グループで模擬授業を行うことを主体的な学びを促す。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平常点50%（講義でのワークシートや小レポート、模擬授業の発表）、最終レポート50%から総合的に判断する。</li> <li>・ 5回以上欠席した場合には単位認定は行わない。</li> <li>・ 「意欲」については、講義への参加の様子や授業毎の課題などの完成度を中心に評価する。</li> <li>・ 「知識」については、小レポートや最終レポートの完成度を中心に評価する。</li> <li>・ 「適性」については、講義への参加の様子や提出物の完成度を中心に、総合的に評価する。</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ活動や発表など、受講生同士の交流を促すような活動を取り入れながら講義を進めるため、積極的な参加を求める。</li> <li>・ 講義内容について配布資料などで復習するとともに、講義中に紹介する参考書や資料などをとにさらなる追究してほしい。</li> <li>・ 上記の授業計画は予定であり、受講人数や受講生の興味・関心、講義の進行具合などによって少し変更する可能性があることを了承されたい。</li> </ul>						
教科書	適宜、資料を配布する。						
参考書	<p>①田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年</p> <p>②田中耕治編著『時代を拓いた教師たちー戦後教育実践からのメッセージ』日本標準、2005年</p> <p>③田中耕治『新しい時代の教育方法』有斐閣、2013年</p> <p>④中学校学習指導要領 2017年改訂</p>						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職原論／教師論						
担当教員	大石 正廣					科目ナンバ-	Q21010
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	児童・生徒、保護者、地域から信頼され、よき同僚として協働できる教師像を追求する						
授業の概要	書籍・新聞などから教育観や教職の歴史の変遷を学ぶ。児童・生徒としての自己の体験を見つめなおし、新聞記事なども参考に、現代の教育課題について考える。児童・生徒の発信するかすかなシグナルを受信して彼らが安心して主体的な自己であり続けられるよう支援できる教員の在り方について理解を深める。子供の発達段階への理解を深め教員の受容的なあり方の意味について考える。						
到達目標	自身の適格性について考察し、教職への意欲を高める						
授業計画	第1回 教員という専門職への基礎知識 第2回 教員の生き方1：過去の教育者から学ぶ 第3回 教員の生き方2：文芸にみる学校と教員 第4回 現代日本における教職の意義 第5回 現代日本における教員の役割 第6回 教員の仕事1：学級経営 第7回 教員の仕事2：学習指導 第8回 教員の仕事3：生徒指導 第9回 教員の養成・採用・服務 第10回 教員による研修と自己研鑽 第11回 チーム学校運営への対応と必要性 第12回 進路指導に役立つ職業教育の配慮 第13回 生徒・後輩・同僚に対するコーチング 第14回 演劇的手法を体験する：関係づくりとHR運営 第15回 個々の学生が目指す教師像の可視化						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱うテキストの当該箇所を予習し、事前にキーワードについて、指定された参考書等で下調べをする。（2時間） 授業後学習：配布のレジメをもとに、授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、学べたこと、考えたこと、さらに調べたいことなどをジャーナルとして記述しまとめておく。（2時間）						
授業方法	講義：授業内容のポイントについて、グループまたはペアによるディスカッションを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項についてさらに解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	毎時間のレポートの内容と提出状況（50%）、授業やグループワークへの取り組み・発表（30%）、試験（20%）で評価する。						
履修上の注意	1. グループ（ペア）ワークを多く取り入れるので、主体的で対話的な学びを求める。 2. 授業での資料は、各回の出席者のみ配布する（欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する）。 3. 出席が10回以上でないとき期末試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	プリントを配布する 「教職論」教員を志すすべてのひとへ」教職問題研究会編 ミネルヴァ書房 ISBN4-623-03640-5						
参考書	特になし						



科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	奥井 一幾・水田 時男					科目ナンバ-	Q24260
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学生が教職課程で身につけてきた資質能力が有機的に統合され形成された結果、教職生活をより円滑にスタートできる教員を目指して実践的な力をつける。						
授業の概要	主な授業は実際の教育現場を想定して以下の項目を取り扱う 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する態度を養う 2. 生徒理解や学級経営等の知識と技能を高める 3. 教科内容等の指導力を高める 4. 社会性や対人関係能力を伸ばす						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員になるという前提での自己分析ができる</li> <li>・教員としての使命感や責任感を感じる</li> <li>・生徒指導や学級経営の知識と技能がつく</li> <li>・模擬授業を通して教科の指導力がつく</li> <li>・社会人としての基本的態度や協調性がつく</li> </ul>						
授業計画	第1回 履修カルテへの記録と気付き 第2回 教師の使命感と責任 第3回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)と発表 第4回 生徒指導1: いじめや不登校などの事例研究 第5回 生徒指導2: 保護者の要望への対応などの事例研究 第6回 ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論 第7回 学級経営: 年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第8回 教育実習を体験して分かった課題(教科・家庭科に焦点化して) 第9回 アクティブ・ラーニングと家庭科カリキュラム 第10回 アクティブ・ラーニングを取り入れた家庭科模擬授業 第11回 フィールドワーク(高校訪問: 家庭科・熟達教師の教材と授業) 第12回 教科(家庭科)の学びを総括する 第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1: ロールプレー 第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2: グループワーク 第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認  第1~7回および第13~15回は水田(1412教室)、第8~12回は奥井(524教室)が担当する。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	新聞記事検索・レポート作成等(1時間程度)、学習指導案の作成・修正等(30分程度)、授業の振り返り(20分程度)						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果(70%) 授業への取り組みの姿勢を評価するものとして作成された教材・指導案など(30%)						
履修上の注意	学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	文部科学省. 中学校学習指導要領解説-家庭編-. 2017. 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-家庭編-. 2018.						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	芝 裕子・水田 時男					科目ナンバ-	Q24260
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学生が教職課程で身につけてきた資質能力が有機的に統合され形成された結果、教職生活をより円滑にスタートできる教員を目指して実践的な力をつける						
授業の概要	主な授業は実際の教育現場を想定して以下の項目を取り扱う 1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する態度を養う 2. 生徒理解や学級経営等の知識と技能を高める 3. 教科内容等の指導力を高める 4. 社会性や対人関係能力を伸ばす						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員になるという前提での自己分析ができる</li> <li>・教員としての使命感や責任感を感じる</li> <li>・生徒指導や学級経営の知識と技能がつく</li> <li>・模擬授業を通して教科の指導力がつく</li> <li>・社会人としての基本的態度や協調性がつく</li> </ul>						
授業計画	第1回 履修カルテへの記録と気付き 第2回 教師の使命感と責任 第3回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)と発表 第4回 生徒指導1: いじめや不登校などの事例研究 第5回 生徒指導2: 保護者の要望への対応などの事例研究 第6回 ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論 第7回 学級経営: 年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング 第8回 教育実習を体験して分かった課題(教科・英語科に焦点化して) 第9回 アクティブ・ラーニングと英語科カリキュラム 第10回 アクティブ・ラーニングを取り入れた英語科模擬授業 第11回 フィールドワーク(高校訪問: 英語科・熟達教師の教材と授業) 第12回 教科(英語科)の学びを総括する 第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1: ロールプレー 第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2: グループワーク 第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認  第1～7回および第13～15回は水田(1412教室)、第8～12回は芝(英語教科担当、1421教室)が担当する。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	第8回 教育実習における課題レポート作成(1時間程度) 第9、10回 学習指導案の作成、修正(2時間程度) 第11回 授業観察レポート(1時間程度) 第12回 模擬授業及び授業の振り返り(30分程度)						
授業方法	模擬授業、ディスカッション、双方向型講義、フィールドワーク						
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果(70%) 授業への取り組みの姿勢を評価するものとして作成された教材・指導案など(30%)						
履修上の注意	学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	文部科学省. 中学校学習指導要領解説-外国語編-. 2017. 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-外国語編-. 2018.						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	田中 まき・水田 時男					科目ナンバ-	Q24260
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	教職課程で身につけてきた資質能力が有機的に統合され形成された結果、教職生活をより円滑にスタートできる教員を目指して実践的な力をつける。						
授業の概要	<p>主な授業は実際の教育現場を想定して以下の項目を取り扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する態度を養う。</li> <li>2. 生徒理解や学級経営等の知識と技能を高める。</li> <li>3. 教科内容等の指導力を高める。</li> <li>4. 社会性や対人関係能力を伸ばす。</li> </ol>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員になるという前提での自己分析ができる。</li> <li>・教員としての使命感や責任感を感じる。</li> <li>・生徒指導や学級経営の知識と技能がつく。</li> <li>・模擬授業を通して教科の指導力がつく。</li> <li>・社会人としての基本的態度や協調性がつく。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 履修カルテへの記録と気付き  第2回 教師の使命感と責任  第3回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)と発表  第4回 生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究  第5回 生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究  第6回 ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論  第7回 学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング  第8回 教育実習を体験して分かった課題(教科・国語科に焦点化して)  第9回 アクティブ・ラーニングと国語科カリキュラム  第10回 アクティブ・ラーニングを取り入れた国語科模擬授業  第11回 フィールドワーク(高校訪問：国語科・熟達教師の教材と授業)  第12回 教科(国語科)の学びを総括する  第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレー  第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2：グループワーク  第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認</p> <p>第1～7回及び第13～15回は水田(1412教室)、第8～12回は田中(1422教室)が担当する。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	新聞記事検索・レポート作成等(1時間程度)、学習指導案の作成・修正等(30分程度)、授業の振り返り(20分程度)						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果(70%) 授業への取り組みの姿勢を評価するものとして作成された教材・指導案など(30%)						
履修上の注意	学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。						
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。						
参考書	文部科学省. 中学校学習指導要領解説-国語編-. 2017. 文部科学省. 高等学校学習指導要領解説-国語編-. 2018.						

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	丸山 果織・水田 時男					科目ナンバ-	Q24260
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学生が教職課程で身につけてきた資質能力が有機的に統合され形成された結果、教職生活をより円滑にスタートできる教員を目指して実践的な力をつける。						
授業の概要	<p>主な授業は実際の教育現場を想定して以下の項目を取り扱う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する態度を養う</li> <li>2. 生徒理解や学級経営等の知識と技能を高める</li> <li>3. 教科内容等の指導力を高める</li> <li>4. 社会性や対人関係能力を伸ばす</li> </ol>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員になるという前提での自己分析ができる</li> <li>・教員としての使命感や責任感を感じる</li> <li>・生徒指導や学級経営の知識と技能がつく</li> <li>・模擬授業を通して教科の指導力がつく</li> <li>・社会人としての基本的態度や協調性がつく</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回 履修カルテへの記録と気付き  第2回 教師の使命感と責任  第3回 教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)と発表  第4回 生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究  第5回 生徒指導2：保護者の要望への対応などの事例研究  第6回 ゲストスピーカー選挙管理委員会による講義と討論  第7回 学級経営：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイング  第8回 教育実習を体験して分かった課題（書道科に焦点化して）  第9回 アクティブ・ラーニングと書道科カリキュラム  第10回 アクティブ・ラーニングを取り入れた書道科模擬授業  第11回 フィールドワーク（高校訪問：書道科・熟達教師の教材と授業）  第12回 教科（書道科）の学びを総括する  第13回 社会人としての基本的態度と組織における協調性1：ロールプレー  第14回 社会人としての基本的態度と組織における協調性2：グループワーク  第15回 改善された点のチェックと資質・能力の再確認</p> <p>第1～7回および第13～15回は水田(1412教室)、第8～12回は丸山(211教室)が担当する。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	学習指導案の改善、新聞を用いた教材づくりなど（学習時間：90分）						
授業方法	演習 プレゼンテーション ディスカッション						
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果(70%) 授業への取り組みの姿勢を評価するものとして作成された教材・指導案など(30%)						
履修上の注意	学力や指導技術の向上はもとより、教員としての資質を身につけるため、積極的な態度で課題や授業に取り組むこと。						
教科書	必要に応じて資料を配付する。						
参考書	「高等学校学習指導要領解説 芸術編」（平成21年度版）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法IA						
担当教員	羽田 潤					科目ナンバ-	Q2309A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	国語科教育の理論の習得と授業演習						
授業の概要	国語科教育の意義、目標、方法等について、新学習指導要領を軸に、講義を行う。さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案の作成及び模擬授業を行い、「主体的・対話的で深い学び」のある国語科授業とは何かについて探究を行う。						
到達目標	学習指導要領に基づいた授業設計を行い、その授業を展開することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション、国語の授業と私 第2回 教材と国語の授業 第3回 国語の授業はどうあるべきか 第4回 中教審答申からみえること 第5回 新学習指導要領における国語科 第6回 学習指導案を書いてみる 第7回 言語活動の充実・アクティブ・ラーニングとは 第8回 「話すこと・聞くこと」の授業 第9回 「書くこと」の授業 第10回 「読むこと」の授業 第11回 「伝統的言語文化」の授業 第12回 模擬授業演習1「読むこと」文学的文章 第13回 模擬授業演習2「読むこと」説明的文章・評論 第14回 模擬授業演習3「読むこと」伝統的言語文化 第15回 振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・模擬授業演習の成功をひとつの到達目標とし、以下のことに取り組むこと。 1. 授業前の予習：授業内容に関わる資料は事前に配布するので、90分間の予習をし、資料内容を理解しておくこと。 2. 授業後の復習：資料に基づいた議論のまとめを配布するので、その資料に基づき、90分間、内容に関する復習しておくこと。 3. 予習・復習は、全て、模擬授業準備として積み上げていくこと。具体的には、学習指導要領の理解、国語教科書及び教材特性の理解、国語科学習指導案の作成、板書計画、模擬授業シミュレーションを十分に行い、模擬授業の遂行に十分な準備を行うこと。 4. 模擬授業終了後は、指導案の修正に向けて成果と課題をあきらかにし、指導案の修正を具体的な根拠に基づき行うこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点30%：各回提出の課題などで評価する 演習内容40%：学習指導案作成、模擬授業の内容で評価する レポート30%：模擬授業の改善案レポートの内容で評価する						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は成績対象外とするが、基本的に欠席はしないように。						
教科書	「中学校学習指導要領解説 国語編」（平成29年版）文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 国語編」（平成30年版）文部科学省 ほかに、必要に応じて、プリント等を配付する。						
参考書	「中学校学習指導要領」（平成29年版）文部科学省 「高等学校学習指導要領」（平成30年版）文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法IB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	Q2309B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	国語科教育実践の基礎						
授業の概要	学校現場での授業観察を通して、学習者の実態、指導の方法を学び、授業設計に役立てる。また、国語科教育法IAで学んだ学習指導要領の目標や内容など学習指導理論を踏まえて、学習指導案の作成や模擬授業に取り組む。さらに、「主体的・対話的で深い学び」が実現される授業展開ができるよう、国語科におけるアクティブ・ラーニングについて考える。						
到達目標	「主体的・対話的で深い学び」を実現する国語科授業を設計し、適切な授業展開を構想できる。【汎用的技能】学習指導案や模擬授業を振り返り、授業改善ができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：学校現場での授業実態と授業観察の視点 第2回：国語科現代文授業観察（於：松蔭中・高） 第3回：国語科古典授業観察（於：松蔭中・高） 第4回：国語科におけるアクティブ・ラーニングの探究（ゲストスピーカー） 第5回：国語科学習に対する生徒の認識、思考及び学力等の実態 第6回：現代文教材の学習指導案作成 第7回：現代文教材の学習指導案の検討 第8回：現代文教材の模擬授業 第9回：現代文教材の模擬授業の検討 第10回：古典教材の学習指導案作成 第11回：古典教材の学習指導案の検討 第12回：古典教材の模擬授業 第13回：古典教材の模擬授業の検討 第14回：国語科教材と情報機器の活用 第15回：情報機器の活用と発展的な学習内容の探究						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：学習指導案の作成に取り組む。 国語力養成のための勉強を重ねる。（2時間） 授業後学習：模擬授業を振り返り、授業改善し、学習指導案を練り直す。（1時間）						
授業方法	講義と演習（プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	学習指導案の作成と模擬授業（70%） レポート・ワークシート（20%） 授業に対する能動的な姿勢など（10%）						
履修上の注意	第2回・第3回の松蔭中高での授業観察は9月上旬～中旬の実施となることに注意。 毎回のよう、小テストを実施して、到達度を確認する。 3分の1以上欠席した場合は単位取得できない。 そもそも、教員を目指すものとして自覚を持ち、遅刻、欠席は厳に慎むこと。 病気等で欠席する場合は必ずメールで連絡すること。						
教科書	「中学校学習指導要領解説 国語編」（平成29年版）文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 国語編」（平成30年版）文部科学省 ほかに、必要に応じて、プリント等を配付する。						
参考書	「中学校学習指導要領」（平成29年版）文部科学省 「高等学校学習指導要領」（平成30年版）文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法II						
担当教員	羽田 潤					科目ナンバ-	Q23100
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	国語科教育の理論と新たな時代の要請を踏まえた授業デザイン						
授業の概要	国学習指導案の作成及び模擬授業を軸に、「主体的・対話的で深い学び」のある国語科授業の実現を目指す。						
到達目標	「主体的・対話的で深い学び」のある授業を構想し、展開することができる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 国語科授業の課題 第3回 国語の授業における「アクティブ」とは何か 第4回 授業者にとっての「アクティブ」と生徒にとっての「アクティブ」 第5回 「アクティブ・ラーニング」を巡る議論 第6回 国語科授業の目的に関わる議論 第7回 リーディングスキルに関わる議論 第8回 大学入学共通テストに関わる議論 第9回 模擬授業及び検討会1「読むこと」文学的文章（現代） 第10回 模擬授業及び検討会2「読むこと」文学的文章（近代） 第11回 模擬授業及び検討会3「読むこと」説明的文章・評論 第12回 模擬授業及び検討会4「読むこと」伝統的言語文化（古文） 第13回 模擬授業及び検討会5「読むこと」伝統的言語文化（漢文） 第14回 模擬授業リフレクション 第15回 全体の振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・模擬授業演習における学習者理解に基づいたアクティブラーニングの成功を到達目標とし、以下のことに取り組むこと。 1. 授業前の予習：授業内容に関わる資料は事前に配布するので、90分間の予習をし、資料内容を理解しておくこと。 2. 授業後の復習：資料に基づいた議論のまとめを配布するので、その資料に基づき、90分間、内容に関する復習をしておくこと。 3. 予習・復習は、全て、模擬授業準備として積み上げていくこと。具体的には、学習指導要領の理解、国語科教科書及び教材特性の理解、国語科学習指導案の作成、板書計画、模擬授業シミュレーションを十分にを行い、模擬授業の遂行に十分な準備を行うこと。 4. 模擬授業終了後は、指導案の修正に向けて成果と課題をあきらかにし、指導案の修正を具体的な根拠に基づき行うこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	平常点30%：各回提出の課題などで評価する 演習内容40%：学習指導案作成、模擬授業の内容で評価する レポート30%：模擬授業の改善案レポートの内容で評価する						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した人は成績対象外とするが、基本的に欠席はしないように。						
教科書	「中学校学習指導要領解説 国語編」（平成29年版）文部科学省 「高等学校学習指導要領解説 国語編」（平成30年版）文部科学省 ほかに、必要に応じて、プリント等を配付する。						
参考書	「中学校学習指導要領」（平成29年版）文部科学省 「高等学校学習指導要領」（平成30年版）文部科学省						

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法III						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ-	Q24110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	国語科授業を常に改善する姿勢を持ち、さらに、発展的な内容についても探究する。						
授業の概要	<p>「国語科教育法」の授業では、国語科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について背景となる国語学・国文学・漢文学等の学問領域と関連させて理解を深め、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>特に本授業「国語科教育法III」は、授業目標に適合した評価のあり方や適切な授業展開であるかについて、自己点検や学生間の検討を通して、よりよい授業を目指して、学習指導案の修正や授業改善に努める姿勢を確立する。また、情報機器を活用した効果的な授業展開を探究する。</p> <p>なお、国語科教育を担うのに十分な国語力を養成すべく、小テストを重ねる。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科の学習評価の考え方を理解し、適切な授業が構想できる。</li> <li>・学習指導案や模擬授業を振り返り、授業改善ができる。</li> <li>・情報機器を適切に使用した授業が構想できる。</li> <li>・発展的な学習内容について探究し、学習指導に位置付ける方法を理解できる。</li> </ul>						
授業計画	<p>第1回：評価から構想した国語科の授業設計</p> <p>第2回：国語科授業における評価基準</p> <p>第3回：国語科授業における情報機器使用の研究</p> <p>第4回：現代文授業における情報機器使用の演習</p> <p>第5回：情報機器を使用した現代文模擬授業</p> <p>第6回：上記（現代文）授業の検討と改善</p> <p>第7回：古典授業における情報機器使用の演習</p> <p>第8回：情報機器を使用した古典模擬授業</p> <p>第9回：上記（古典）授業の検討と改善</p> <p>第10回：アクティブ・ラーニングの現代文模擬授業</p> <p>第11回：上記（現代文）授業の検討と改善</p> <p>第12回：アクティブ・ラーニングの古典模擬授業</p> <p>第13回：上記（古典）授業の検討と改善</p> <p>第14回：国語科における発展的な学習内容の探究</p> <p>第15回：実践研究の動向と授業設計の課題</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>国語科教員を目指す者として、国語力養成のための学習を重ねる。（1時間程度）</p> <p>学習指導案の作成・修正等（1時間程度）</p> <p>授業の振り返り（30分程度）</p>						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	<p>演習内容（学習指導案作成、模擬授業）70%</p> <p>小テスト（国語力養成のためのテスト）30%</p>						
履修上の注意	教員を目指すものとして自覚を持ち、遅刻、欠席は厳に慎むこと。						
教科書	<p>「中学校学習指導要領解説 国語編」（平成29年版）文部科学省</p> <p>「高等学校学習指導要領解説 国語編」（平成30年版）文部科学省</p> <p>ほかに、必要に応じて、プリント等を配付する。</p>						
参考書	<p>「中学校学習指導要領」（平成29年版）文部科学省</p> <p>「高等学校学習指導要領」（平成30年版）文部科学省</p>						



科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法IA						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ-	Q2312A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	高等学校芸術科書道の教員として必要な理論と実践						
授業の概要	高等学校芸術科書道の教育内容を理解し、その実践のための具体的な学習指導方法を習得する。高等学校における芸術の授業をどのように考え、如何に実践するか。実技としての特性を踏まえた授業展開、より具体的な学習指導内容、方法、技術を考える。国語科書写との関連をはかる。学習指導要領に基づき指導計画の立案や指導方法について考察する。模擬授業をとおして実践力を高めることを目指す。書道実技演習は毎時間行い、実技力、表現力や鑑賞力の向上を目指す。						
到達目標	①文科省学習指導要領における書道教育について理解し、実技教育の方法、教科書の使い方などの工夫ができる。 ②実技能力の向上を目指す。						
授業計画	1) ガイダンス（書道教員になるために—教育理念をもつ 2) 書写と書道について、書道教育の歴史 3) 書道史・書論について 4) 書道における芸術性と実用性 5) 学習指導要領の検討—書道Ⅰ 6) 学習指導要領の検討—書道Ⅱ 7) 学習指導要領の検討—書道Ⅱ 8) 臨書について（1）臨書の方法と意義 9) 臨書について（2）古典臨書 10) 表現について（1）—臨書と創作指導のあり方 11) 表現について（2）—漢字仮名交じりの書と古典 12) 書道科の授業展開とアクティブ・ラーニングについて 13) 実技授業とは—高校芸術科書道を体験（兼模擬授業）（1）名前を書く（楷・行・草） 14) 実技授業とは—高校芸術科書道を体験（兼模擬授業）（2）半紙に書く（篆書・隸書） 15) 実技授業とは—高校芸術科書道を体験（兼模擬授業）（3）半切に書く						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技能力の向上は、授業外での努力を望む。（学習時間：90分）						
授業方法	講義および実技 プレゼンテーション ディスカッション						
評価基準と評価方法	平常点20%：授業取り組み姿勢 課題・提出物50%：到達目標①到達度確認 提出作品30%：到達目標①到達度確認						
履修上の注意	毎時間、書道用具及び筆記具、ノート持参のこと。書道用具は絶対に忘れてはいけない。書道の教師としての適性が問われる授業。授業態度、とりわけ欠席、遅刻、トイレ、携帯、教室の美化など節度ある態度を望む。教育に関するワークショップなどの依頼があれば参加し、経験を重ねることを望む。						
教科書	「高等学校学習指導要領解説 芸術編」（平成21年度版） 「書Ⅰ」（光村図書）						
参考書	「高等学校学習指導要領」（平成21年度版）						

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法IB						
担当教員	真鍋 昌生					科目ナンバ-	Q2312B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	高等学校芸術科書道の教員として必要な理論と実践						
授業の概要	高等学校芸術科書道の教育内容を理解し、その実践のための具体的な学習指導方法を習得する。高等学校における芸術の授業をどのように考え、如何に実践するか。実技としての特性を踏まえた授業展開、より具体的な学習指導内容、方法、技術を考える。国語科書写との関連をはかる。学習指導要領に基づき指導計画の立案や指導方法について考察する。模擬授業をとおして実践力を高めることを目指す。書道実技演習は毎時間行い、実技力、表現力や鑑賞力の向上を目指す。						
到達目標	文科省学習指導要領における書道教育について理解し、実技教育の方法、教科書の使い方などの工夫ができる。また、実技能力の向上を目指す。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学校現場での授業観察 (事前授業)</li> <li>2) 学校現場での授業観察 (1) (於: 松蔭高校)</li> <li>3) 学校現場での授業観察 (2) (於: 松蔭高校)</li> <li>4) 学校現場での授業観察 (事後授業)、書道科の授業展開-篆刻について①</li> <li>5) 書道科の授業展開-篆刻について②</li> <li>6) 学習指導の要素・方法・形態・技術 (1) -示範・批評の学習指導</li> <li>7) 学習指導の要素・方法・形態・技術 (2) -知識・理解の学習指導</li> <li>8) 学習指導計画の立案 (1) 一年間・単元</li> <li>9) 学習指導計画の立案 (2) -毎時</li> <li>10) 評価について・鑑賞指導法の研究と視聴覚教材の検討</li> <li>11) 各自の学習指導案の検討 (1)</li> <li>12) 各自の学習指導案の検討 (2)</li> <li>13) 学生による模擬授業 (1)</li> <li>14) 学生による模擬授業 (2)</li> <li>15) 模擬授業の検討-授業のまとめ</li> </ol> 評価について・鑑賞指導法の研究と視聴覚教材の検討						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	実技能力の向上は、授業外での努力を望む。 学習時間: 90分						
授業方法	講義および実技						
評価基準と評価方法	平常点20% 課題・提出物50% 作品提出30%						
履修上の注意	第2回・第3回の松蔭高校での授業観察は9月中旬の実施となることに注意。毎時間、書道用具及び筆記具、ノート持参のこと。書道用具は絶対に忘れてはいけない。書道の教師としての適性が問われる授業。授業態度、とりわけ欠席、遅刻、トイレ、携帯、教室の美化など節度ある態度を望む。質問は講義の前後に教室で受け付ける。						
教科書	高等学校学習指導要領解説芸術編 (文科省) 「書I」 (光村図書)						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法II						
担当教員	丸山 果織・真鍋 昌生					科目ナンバ-	Q24130
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	書道科教育の理論と実践の習得						
授業の概要	書道科教育の意義、目標、方法等について講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、書道の実技力を高めるため演習を積む。						
到達目標	①書道科教育の意義、目標、方法等の理論を理解し、説明することができる。 ②実技力向上における指導法を習得する。						
授業計画	1) 書道科教育の概説 2) 書道科の授業分析 3) 実際の書道科の授業についての考察 4) 授業進行過程における問題点の確認とその対策①-目標設定について 5) 授業進行過程における問題点の確認とその対策②-実習方法について 6) 授業進行過程における問題点の確認とその対策③-提出の方法について 7) 実技指導上の問題点の確認とその克服のための対策(個々の実技上の課題設定) 8) 学習指導案の作成① 9) 学習指導案の作成② 10) 書道科授業の指導案検討① 11) 書道科授業の指導案検討② 12) 模擬授業① 13) 模擬授業② 14) 書道科の評価 15) 書道科教育のまとめ						【丸山】 【丸山】 【真鍋】 【丸山】 【丸山】 【丸山】 【丸山】 【丸山】 【真鍋】 【真鍋】 【丸山】 【丸山】 【真鍋】 【丸山】 【丸山】 【丸山】
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	書道科教員を目指す者として、書道の知識と実技力の向上の修練を怠らないこと。(学習時間:90分)						
授業方法	講義と実技演習						
評価基準と評価方法	講義内容(学習指導案作成、模擬授業、レポート)40%:到達目標①の到達度確認 実技能力(提出作品)60%:到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	教員を目指す者としての自覚を持ち、基本的に全ての授業に出席すること。 教育に関するワークショップなどの依頼があれば参加し、経験を重ねることを望む。						
教科書	「高等学校学習指導要領解説 芸術編」(平成21年度版) 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	「高等学校学習指導要領」(平成21年度版)						

科目区分	教職課程科目						
科目名	生徒指導の理論と方法／生徒指導論						
担当教員	長谷川 誠					科目ナンバ-	Q22210
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生徒の人格形成と自己実現力の育成						
授業の概要	今日の学校教育では教科指導と同じだけ教科外指導（生徒指導や進路指導）のもつ比重は大きい。こうした教科外指導を適切に行うためには、学校で起こっているさまざまな問題や、生徒の変化を実証的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められるのである。本講義では、生徒指導の意義や目的を理解し、現代の学校現場における、いじめ問題、不登校問題、体罰問題等をテーマに議論を展開し、こうした事象に対する自分なりの考えや意見を持てる力を身につけるとともに、問題解決方法を探っていくこととする。また、進路指導の内容には、学校教育におけるキャリア教育の意義を整理し、就労問題を取り上げながら、キャリア・ガイダンスのあり方について言及したい。						
到達目標	生徒指導の理論と方法のなかで目指すべき目標は、以下の4点である 1. 教科指導と教科外指導との関連を理解し、生徒指導が学校の教育活動全般にわたって行われなければならない営みであることを理解する。 2. いじめや不登校などの学校病理を事例として取り上げられながら、それへの対処方法を理解する。 3. 生徒たちのより適切な進路指導としてキャリア教育という視点を理解しその際の留意点等を理解する。 4. 生徒たちの発達に合わせて教育指導は行われるべきであることを理解し、学校現場におけるカウンセリングマインドの有効性について理解する。						
授業計画	第1回：生徒指導の意義と概念 第2回：教育課程と生徒指導 第3回：生徒理解と生徒指導 第4回：生徒の問題行動 第5回：懲戒、体罰 第6回：不登校問題の理解と対応 第7回：不登校問題の対応 第8回：いじめの歴史の変遷 第9回：いじめの今日的特質 第10回：学校教育における生徒指導の課題 第11回：進路指導からキャリア教育へ 第12回：キャリア教育の目標と教育課程上の意義 第13回：職業体験とインターンシップ 第14回：進学指導の在り方 第15回：就職指導の在り方						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・ 生徒指導、進路指導に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・ 授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。						
授業方法	講義およびグループディスカッションを中心に行う						
評価基準と評価方法	・ 課題試験70% ・ レポート30%						
履修上の注意	・ 出席及び授業への参加度重視。 ・ 欠席した場合は、必ず相談すること。						
教科書	文部科学省生徒指導提要						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	教職課程科目						
科目名	特別活動指導法						
担当教員	長谷川 誠・松田 修					科目ナンバ-	Q23190
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	生徒にとって学校が楽しくなる工夫						
授業の概要	学校教育における特別活動の位置づけや役割について、学習指導要領や具体的な取組み事例等を通して理解することを目指す。特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え自己実現を図っていける人間を育成するという重要な目的をもっている。また、教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを基盤とする活動であるとされている。授業では、このような特別活動の教育的な意義をふまえながら、学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、部活動及び学校行事の具体的な課題解決のための指導法について、学生参加型の授業を転換しながら検討する。						
到達目標	特別活動の内容を理解し、関連する計画を立てることができる（学習指導要領の内容を理解し、具体的な計画が立てられること。）						
授業計画	第1回：授業オリエンテーション（担当：長谷川） 第2回：特別活動の目標と意義（担当：長谷川） 第3回：特別活動の内容相互の関連（担当：長谷川） 第4回：学級（HR）活動のあり方と実践（担当：松田） 第5回：グループ別研究（学級（HR）について）（担当：長谷川） 第6回：個人研究（HRの年間計画）（担当：長谷川） 第7回：発表と討議（担当：長谷川） 第8回：生徒会活動のあり方と実践（担当：松田） 第9回：グループ別研究（担当：長谷川） 第10回：学校行事のあり方と実践（担当：松田） 第11回：グループ別研究（学校行事について）（担当：長谷川） 第12回：発表と討議（担当：長谷川） 第13回：部活動のあり方（担当：長谷川） 第14回：発表と討議（担当：長谷川） 第15回：まとめ（担当：長谷川）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・特別活動に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。						
授業方法	講義およびグループディスカッションを中心に行う						
評価基準と評価方法	課題試験50% 研究発表30% 授業への取り組み、姿勢20%						
履修上の注意	・出席及び授業への参加度重視。 ・欠席した場合は、必ず相談すること。						
教科書	文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 特別活動編」						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	教職課程科目						
科目名	道徳指導法						
担当教員	松岡 靖・河佐 英俊					科目ナンバ-	Q23180
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	道徳教育の指導案を倫理学で組み立てよう。						
授業の概要	本科目の内容と目標は次の三つに整理できる。第一に教育基本法などの方針に基づき、主体的かつ自立した人間として、他者と共生する基盤となる道徳性について、学生が理解を深めることである。第二に道徳の意義や原理を踏まえて、学校での道徳教育の目標と内容を、学生が修得することである。第三に道徳教育が学校の教育活動全体を通じて行われることを理解した上で、その要となる道徳化の指導方針と指導方法を、学生が修得することである。具体的には授業序盤は講義を中心とし、中盤で倫理学の視点で指導案を検討・作成し、終盤で学生が模擬授業を実施する。						
到達目標	道徳の意義や原理などを踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、その要となる道徳科の目標・内容・指導計画等を学生が理解し【知識・理解】、教材研究・学習指導案の作成・模擬授業の実践などを通じて、学生が実践的な指導力を身に付ける【汎用的技能】。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：私語の倫理学（担当：松岡） 第2回 体験した道徳教育：グループで発表する（担当：松岡） 第3回 指導要領にみる道徳科(1)：学校教育の役割（担当：松岡） 第4回 指導要領にみる道徳科(2)：他教科との関係（担当：松岡） 第5回 道徳科の教材研究(1)：自己との関わり（担当：松岡） 第6回 道徳科の教材研究(2)：他者との関わり（担当：松岡） 第7回 道徳科の教材研究(3)：集団・社会との関わり（担当：松岡） 第8回 道徳科の教材研究(4)：生命・自然との関わり（担当：松岡） 第9回 指導案の作成(1)：資料・ねらい・発問の工夫（担当：松岡） 第10回 指導案の作成(2)：導入・展開・終末の工夫（担当：松岡） 第11回 模擬授業の実践(1)：自己との関わり（担当：河佐） 第12回 模擬授業の実践(2)：他者との関わり（担当：河佐） 第13回 模擬授業の実践(3)：集団・社会との関わり（担当：河佐） 第14回 模擬授業の実践(4)：生命・自然との関わり（担当：河佐） 第15回 まとめ：相互評価・レポート返却・成績説明など（担当：松岡）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	1. 前半では学習指導要領などの文書を各自で読み込む（学習時間：6時間）。 2. 中盤ではグループごとに指導案を作成して改善する（学習時間：6時間）。 3. 後半では各グループで模擬授業の練習を積んでおく（学習時間：6時間）。						
授業方法	1. 前半では教員が配付した資料の説明を中心に進める。 2. 中盤では具体的な指導案を使って授業研究を深める。 3. 後半では各グループが模擬授業を実施し質疑を行う。						
評価基準と評価方法	1. 平常点30点（コメントカードや授業での発言などによる） 2. 模擬授業40点（教員だけでなく学生の相互評価をも含む） 3. 学期末レポート30点（模擬授業と質疑応答を題材とする）						
履修上の注意	1. 授業が理解できなければ遠慮しないで積極的に質問すること。 2. 第11回～14回は6月～7月の土曜2日間の1・2限に実施する予定。 3. 原則として2/3以上の出席に満たなければ受験資格を失う。						
教科書	『道徳教育はホントに道徳的か?』松下良平、日本図書センター、978-4-284-30447-4。						
参考書	『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』						